



学校だより

平成29年4月28日

横浜市立高田中学校

5月号(第29-02号) Ⅱ: 591-4183 校長 福田 之男

29年度がスタートしました。

平成29年度がスタートして約1ヶ月となります。高田中学校は、今年度も順調にスタートすることができました。年度の始まりということで、多くの生徒が前向きに生活をしていることが感じられます。委員会決めでは、積極的に立候補する生徒が多いと聞いています。また、集会時の集合状況では、ほぼ5分前には集合が完了し、静かに会が始まるのを待っています。授業でも、多くの生徒が意欲的に学習に取り組もうとしていることが感じられます。

昨年度の学校評価で、本校の学校教育目標で示されている「ストリートスマート」という言葉がわかりにくいとのご指摘をいただきました。「ストリートスマート」という英語は [Webster's New World College Dictionary](#) によれば、「knowledgeable or shrewd in any given field, social setting, etc. as a result of practical experience (実際的な経験の結果として、どんな分野や社会的な状況においても知識があり、洞察力がある。)」というように定義されていますが、本校では「ストリートスマート」という言葉を「学ぶことを通して、自ら課題を形成し、その課題を自ら解決し21世紀を生き抜く力」という本校の教育目標を一言で言い表したものと捉えます。

子どもたちは学校において、教科の学習、学級活動、生徒会活動、部活動、行事への取組、友人や先生との関係の構築など、様々な学びを経験しています。教科の学習を基礎として、多くの分野で様々な経験(体験)を積み、そこで自ら課題を発見・形成し、それを自らの力で解決する力を身に付け、グローバル化が進展し、社会構造の変化も大きくなると予測される21世紀の社会を生きる人としての力を培っていくことを期待しています。

今年度も、学習面では基礎・基本の確実な定着とともに、「表現活動を充実させる」ことを目指して、「高田の時間」と、1年の国語科において学級を二つのグループに分割して指導する少人数指導、2年と3年の数学科での少人数指導を設定しています。この「高田の時間」や国語の授業、そのほかの授業で、各単位時間や単元で、「読む活動」「聞く活動」「書く活動」「まとめる活動」「発表する活動」などを実施し、表現力を高めていきます。

今年度の学校教育目標、指導の重点等ですが、おおむね昨年度の取組を継続していきたいと考えています。「総合的でバランスのとれた学校づくり」を更に充実させていきたいと思っています。

1 学校経営方針(平成29年度)

- (1) 学習指導要領の「生き方を育む」という理念に沿って、学校教育目標に基づき、計画的・系統的で特色ある教育課程の運営・改善を推進する。

- (2) 生徒一人ひとりが学力の向上を実感でき、価値ある生き方を求めて自己変革していくことを支援するため、教職員の研修を充実し、共通理解を深めるとともに指導力の向上に努める。
- (3) 「総合的でバランスのとれた学校づくり」の実現に向け、教職員相互が啓発・連携し合い、学校経営への参加意欲を高めるとともに、組織的・効率的な学校運営に努める。
- (4) 生徒が安全で安心な学校生活を過ごせるよう、学校の防災・防犯体制及び学校環境の改善に努める。
- (5) 生徒、保護者の思いや願いを積極的に学校教育に生かすとともに、学校・家庭・地域との連携・協働による学校づくりを進める。

2 指導の重点(平成29年度)

- (1) 生徒一人ひとりの基礎的・基本的な知識及び技能の確実な定着を図るとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を育むための指導を進めるとともに、個に応じた指導及び評価の改善に努める。また、社会参加・自立を目指すため、個別支援教育計画に基づく個別支援教育の充実に努める。
- (2) 自らを律しつつ、他の人への感謝と思いやりの心をもって、自らの生き方を切り拓いていく生徒を育成するため、全教育活動で道德教育を推進する。
- (3) 差別やいじめをなくし、互いの違いを認め合い、共に安心して学校生活を過ごせるよう、人権を尊重する教育を推進する。
- (4) 自他の生命を尊重し、健全な心と体を育てるため、基本的生活習慣の定着など、生徒の内面への積極的な支援を基にした生徒指導の充実に努める。
- (5) 将来の生き方を考え、自らの進路を主体的に選択することができるよう、職業講話や職場体験学習、進路学習などの体験を生かした進路指導の充実に努める。

3 今年度取り組んでいきたい具体的な課題 ～ 学校経営方針・指導の重点を受けて ～

(1) 教育活動全体に関わること

- ア 新学習指導要領の趣旨理解と教育課程の運営・改善の推進
 - ・年間3回以上の職員研修会を行う。(2回は小学校との合同研修)
 - ・月1回教育課程編成委員会を開催し、行事の見直し等の課題の検討を行う。
- イ 学校評価の内容と実施方法の改善、結果の公開についての検討
 - ・学校評価の結果を学校便りやウェブサイトで公開する。
- ウ 創意工夫を生かした指導方法などの特色ある教育活動の展開
- エ 個別支援教育の充実と特別支援教育研修の推進
 - ・年間1回以上の職員研修を実施し、特別な支援を必要とする生徒の理解と指導について研修する。

(2) 学習指導に関わること

- ア 学力向上のための指導の研究

- ・生徒による授業評価の実施について検討する。
- ・全員参加の研究授業を行い、教員同士が互いに授業を見た上で、授業改善のための研修会を行う。
- ・小学校との合同授業研修会を年2回程度実施する。
- ・学習習慣の定着のための取り組みについて、教科の特性を考慮し、研究する。（はまっ子学習ドリルの活用など）
- イ 調べ学習など生徒の主体的な学習を重視した授業展開の研究
- ウ 生徒の「よさ」を生かした評価方法の研究
 - ・評価方法や精度を高めるための研修会を実施する。
- エ 新学習指導要領に向けた道徳教育及び人権教育の全体計画・年間指導計画の作成と改善
 - ・公開授業の際に道徳の時間を設定する。
 - ・「特別の教科道徳」の授業や評価のための研修会を実施する。
- オ 読書活動の検証と情報発信の場としての図書館利用の推進
 - ・学校司書と協働し、図書館利用について改善を図る。

(3) 特別活動に関わること

- ア 学級経営の基盤となる計画的な学級指導の改善
 - ・すべての学級で共通して指導する事項を確認し、適切な指導を行う。
 - ・YPアセスメントなどを活用した、学級経営や生徒指導に役立てるための研修会を実施する。
 - ・学級経営計画を立案し、年間の指導の見通しをもつ。
- イ 3年間を見通した系統的、計画的なキャリア教育についての研究
 - ・生徒一人ひとりの社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てる。
 - ・1年次に職業講話、2年次に職場体験学習を設定し、地域の教育資源を生かし、進路指導を行う。
- ウ 自主的・創造的な生徒（生徒会）活動の推進
 - ・学校行事（校外活動、体育祭、合唱コンクール、文化祭等）を活用して、リーダーの育成や生徒一人ひとりが集団での自分の役割を自覚し、その役割を果たすことができることを目標に指導を行う。

(4) 生徒指導に関わること

- ア 教育相談など生徒理解に基づく生徒指導の研修
 - ・年間2回以上の教育相談を実施する。
 - ・生徒理解の研修会を年間2回実施する。
 - ・YPアセスメント等の生徒へのアンケート調査を利用した資料を基に行う研修会を実施する。
- イ 学級指導を基盤とした生徒指導の充実を図る。

(5) 保健安全に関わること

- ア 学校防犯体制及び学校防災の改善
 - ・地震等の緊急時の対応マニュアルの見直しを行う。
 - ・非常用の生徒用飲料水、食料の整備を行う。
 - ・学校防災（特に地震等への対応）に関する研修会を実施する。
- イ 基本的な生活習慣（食習慣）と学習意欲との関連についての研究

- ・食育に関する全体計画を必要に応じて改善する。

研究主題

「生徒が主体的に考え、判断し、表現することができる学習指導に関する実践研究」

対面式

4月6日（木）に対面式が実施されました。対面式は1年生が2、3年生全員と会う初めての機会となります。この対面式では、最初に1年生が学級ごとにステージに上がり、代表生徒の号令の下に「よろしくお願いします。」と挨拶をしました。2、3年生からは、高田中での生活をクイズにしての紹介がありました。その後、花の贈呈、新入生のことばとプログラムが続き、50分程で終了しました。この対面式をきっかけに、新入生と2、3年生が高田中学校の生徒としての自覚をもって、新年度をスタートすることができることを期待しています。

新入生代表の言葉 1年2組 五月女 拓飛さん

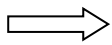
待ちに待った中学校生活がスタートしました。中学生になって楽しみなことがたくさんあります。一つ目は部活動です。小学校の時、部活動のオリエンテーションを見て、先輩方が部活に一生懸命取り組んでいる姿をとて格好いいと思いました。そして自分も一生懸命取り組める部活に入りたいです。

二つ目は体育祭と合唱コンクールです。小学校の運動会などと違いクラス対抗なので、クラスで協力し仲間との関わりを大切にしていきたいです。

しかし、楽しみなことばかりでなく、心配なこともあります。中学生になると学習の範囲が増え、科目も増えることです。授業時間も長くなり、部活動との両立がうまくできるか心配になりますが、先輩方に色々教えてもらってがんばっていきたいと思います。まだ中学生のスタート地点に立ったばかりですが、来年、再来年には、今の自分がそう思っているように、後輩から格好いい先輩だと思われるように、赤学年のみんと協力し、何事も真剣に取り組んでいきたいです。



お知らせ・・・セクハラ相談窓口のご紹介

平成29年度セクハラ担当窓口  守能 繁美（養護教諭）
堤 拓（生徒指導専任教諭）

学校内外で性的嫌がらせなどで困ったり、相談したいことがある時の窓口です。秘密は厳守します。必要があるときは、遠慮なくご相談ください。

教育総合相談センター（一般教育相談）でも相談できます。

電話番号 671-3726～8